

皆さんは、「飯豊権現太鼓」というものを知っていますか。それは山都町で昔から続く伝統的な太鼓演奏のことです。地域のイベントや老人ホームへの慰問等で演奏されています。さらには県外でも、シンガポールやスペインなどの海外でも演奏されたこともあり、活動の幅を広げています。

山都町では、中学校から授業に権現太鼓が取り入れられ、権現太鼓保存会の方が学校にいらっしやって、週に一時間ほど、二、三年生全員に教えてくださいます。

初めて権現太鼓の迫力ある演奏を間近で聞いたとき、私は自分もこれをやってみたいと思いました。毎週火曜日と木曜日の夜に、「やま」とよばれる山都町森林スポーツ公園管理棟で練習をしていると聞いて、その「やま」の練習に行ってみることにしました。緊張などは一切なく、僕の心はワクワクでいっぱいでした。

ドンツ！という豪快な音が部屋全体に響き渡りました。同時にブルブルという振動が足に伝わり、心にも響くようでした。自分も太鼓を叩きました。太鼓の音が自分の耳に、振動が手に伝わって、新鮮な感動を覚えました。どんどん叩きました。手は痛くなり、リズムもうまくとれませんでした。楽しく太鼓を叩けました。指導者の方が優しく丁寧に教えてくださったことや迫力ある演奏も心に残りました。その日から私は権現太鼓に夢中になりました。なぜあんなにうまく叩けるのだろうかという疑問に思い、夜の「やま」の練習から帰ると、スマホで何度も何度も動画を見返しました。一曲覚えたらまた新しい曲を覚えるということを繰り返します。その度に、どんどん自分のレベルが上がっていると思えて、とても嬉しくて、お風呂の時も寝る前も、学校に向かうバスの中でも、ひたすら手で太鼓の曲のリズムを叩きました。

山都町のお祭りで演奏をすることになりました。観客の方々の前で演奏するのは初めてでした。たくさんの方々を前にして、不安と緊張で心臓がバクバクしていました。しかし、最初の一打を叩いた瞬間落ち着きを取り戻し、いつもの練習以上に全力で太鼓を叩いていました。曲が終わり、観客の方々の大きな拍手が耳に届き、僕はとてつもない幸福感に包まれました。あの時の拍手の音は今でも耳に残っています。

僕は権現太鼓に出会い、自分の新しい一面を知ることができました。何かに全力で取り組む大切さや、仲間と音を合わせ曲を奏でる難しさと楽しさを体験することができました。権現太鼓には、自然への敬意、人と人とのつながりを大切にしたいが込められています。だからこそ、権現太鼓を聞いた方々が感動してくださるのだと思います。

権現太鼓には、勇ましい馬の走りを表現した「勇駒」。有名な飯豊山をモチーフにした「飯豊大権現 阿吽の響き」など多くの演奏曲があります。これらの曲は、権現太鼓保存会の方々が、地域の伝統や自然をテーマに、自ら作曲なさったものであるそうです。さらに、様々な場所での演奏を通して、曲の改良や新しい曲の創作が続けら

れ、進化していることも知りました。

私は、「伝統」というものは古いものを守っていくことだと思っていました。しかし、権現太鼓を通して、それだけではないことを実感しました。「やま」での練習には、ベテランの方、頼れるお兄さん、お姉さん、高校生、中学生もいます。様々な年代の人たちが集まって、楽しく練習しています。そしてみんなで新しいもの、素晴らしい演奏を創っている。私は、自分もそこに参加できていることを本当にうれしく、誇りに思います。

これからも、未来へ向かって、「勇駒だーい」、飯豊権現太鼓を続けていきます。